

ひこね繊維協同組合の現在の取り組み



多品種・小ロット生産に対応

日本のファッション業界は、下着全体の売上が低迷する中で、外国産の低価格商品により、国産品の需要が減少傾向にあり、厳しい局面を迎えています。

また、女性の意識も変化し、実用性や機能性だけでなく、着こなしを考えるファッション性も重要視されるようになりました。ファッションの中心となるブラジャーも、1つの商品でもさまざまなサイズ、カラーバリエーションが求められます。

そのため、さまざまニーズに対応できるように「多品種・小ロット（同一生産品の単位量が少ないこと）」の受注が増えています。

彦根を含む産地では、長年培ってきた伝統技術や豊富な経験を生かし、きめ細かな多品種・小ロット生産を展開しており、業界からは絶大な信頼を寄せられています。

産地ブランド化

インターネットでの通信販売や、

産地ならではの自社生産設備による小ロット生産を生かして、産地としてのオリジナル製品を精力的に製作・販売しています。また新作発表の場として、定期的にファッションショーを行っています。

ゲストティーチャー事業

平成21年度から、市内の小学校の家庭科の授業に組合員が出張して、ミシンによる縫製の実演・指導を始めました。

ミシンのある家庭が減り、ミシンに触れる機会が少ない児童に、身近にある高度な伝統技術を肌で感じてもらうながら、地場産業の縫製を楽しく学んでいただくことを目的に活動しています。



▶組合員の縫製技術に目を輝かせる児童ら

彦根ブランドを構築して世界へ発信していきたい

ひこね繊維協同組合

理事長

磯嶋 正幸さん

ひこね繊維協同組合の主な役割は、組合に加盟している企業のサポートです。海外からの研修生を受け入れて加盟企業に派遣したり、情報交換をするために研修会に参加をしたりしています。

加盟企業数は、現在16社です。市内だけではなく、近隣市町にある企業も加盟しています。

組合企業の全員が参加しているゲストティーチャー事業は、子どもたちに変化がもたらされています。子どもたちの姿を見て、組合員も元気にもっています。子どもたちに地場産業や縫製について、知ってもらいたい機会になっていると感じています。



▲組合の商品の強みを話す磯嶋さん

ひこね繊維協同組合が作る商品の主な強みは、伝統的に培われた高度な技術力と、安心して身につけていただくための高い品質です。直接肌につけるものが多いので、特に丁寧な縫い方をしています。例えば、ブラジャーは、曲線を描く立体形に仕上げるので、曲線と曲線の生地を縫い合わせるのに、非常に高度な技術を使っています。低価格の外国製品や金融危機、円高などの影響により、競争はますます激化しています。私たちは多品種・小ロット生産への対応を始め、「よそではできないこと」が何かを考え取り組んでいます。

これからも、ひこね繊維協同組合が持つ、高度な技術を生かした「ものづくり」を行い、将来は「彦根ブランド」を築き上げて、広く世界へ発信していきたいと考えています。

今後オープンに議論できる仲間と切磋琢磨し、時代の流れに適応しながら、伝統ある地場産業を引き継いでいきたいと考えています。



ブラジャーの製造工程を紹介

ブラジャーは、着用感（フィット感）を重視されるので、商品規格が非常に厳しくなっています。また、デザインが複雑で

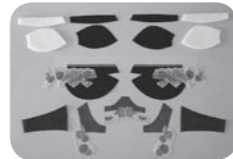
1 企画・デザイン

カラー・素材・アクセサリーなど、新商品を多方面から検討します。

2 カッティング（裁断）

品質を左右する最も重要な工程です。

各パーツをパターン（型）どおりに1ミリメートルの誤差も許されない規格でカットします。



3 カップの縫製

ブラジャーは、胸を包み込むカップ部分と、それを安定させるカップ台（ベルト部分）と肩ひもからできています。カップの縫製



多様な素材やパーツ（部品）で構成されています。製造工程が非常に多いのが特徴で、1つの商品を作るのに、最低でも40以上の工程が必要です。ここで、ブラジャーの主な製造工程を紹介しましょう。

は、バストラインを美しく表現するため立体的な縫製技術が要求されます。

4 カップ台の縫製

カップ台の縫製は、デリケートで伸縮性に富んだ素材に、ゴムテープを縫い付け、サイズにあった長さに仕上げます。



5 カップとカップ台との縫い合わせ

カップとカップを支えるバンド部分とのドッキング（合わせる）の工程です。熟練した作業が必要とされ、左右対称になるよう縫い合わせます。



ひこね繊維シンポジウム 美しく健康に――下着の産地・彦根から――

地域の皆さんに、彦根のファッションについて広く知っていただき、多くの人に地域のファッションを愛用してもらうことで、地域産業の活性化を図り、活気あふれるまちづくりを目的に開催します。

日時 11月20日(土) 午後1時30分～同4時30分（開場は午後1時）

場所 ひこね燦ばれず 多目的ホール（小泉町）

事前申込 不要



▼基調講演

講師 武田尚子さん
（フリー・ジャーナリスト）

プロフィール
ボディファッション業界専門誌の記者を経て、昭和63年にフリーランスとして独立。

世界のインナーウエアトレンドの発信拠点である「パリ国際ランジェリー展」の取材や、年2回の定期的な海外取材は20数年に及ぶ。

▼試作品の紹介

新たな可能性に向けた6つのテーマを掲げ、ひこね繊維協同組合加盟の各企業が試作品を制作して会場ロビーに展示します。

県立大学や彦根総合高校の学生などと共同で企画・制作したのもあります。

▼パネルディスカッション

講演をされる武田さんをコメンテーターに迎え、試作品の評価をしていただきます。

「美しく健康に」をテーマにパネリストの思いを語っていただきます。

※このシンポジウムは、全国モーターポート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施するものです。

問い合わせ先

ひこね繊維協同組合（中央町） ☎ 22-47699番、FA X 22-47222番